河川区域のサイクリングロード利活用促進に関する一考察

水循環・まちづくり・防災グループ
研究員　八町　裕浩

1. 背景と目的

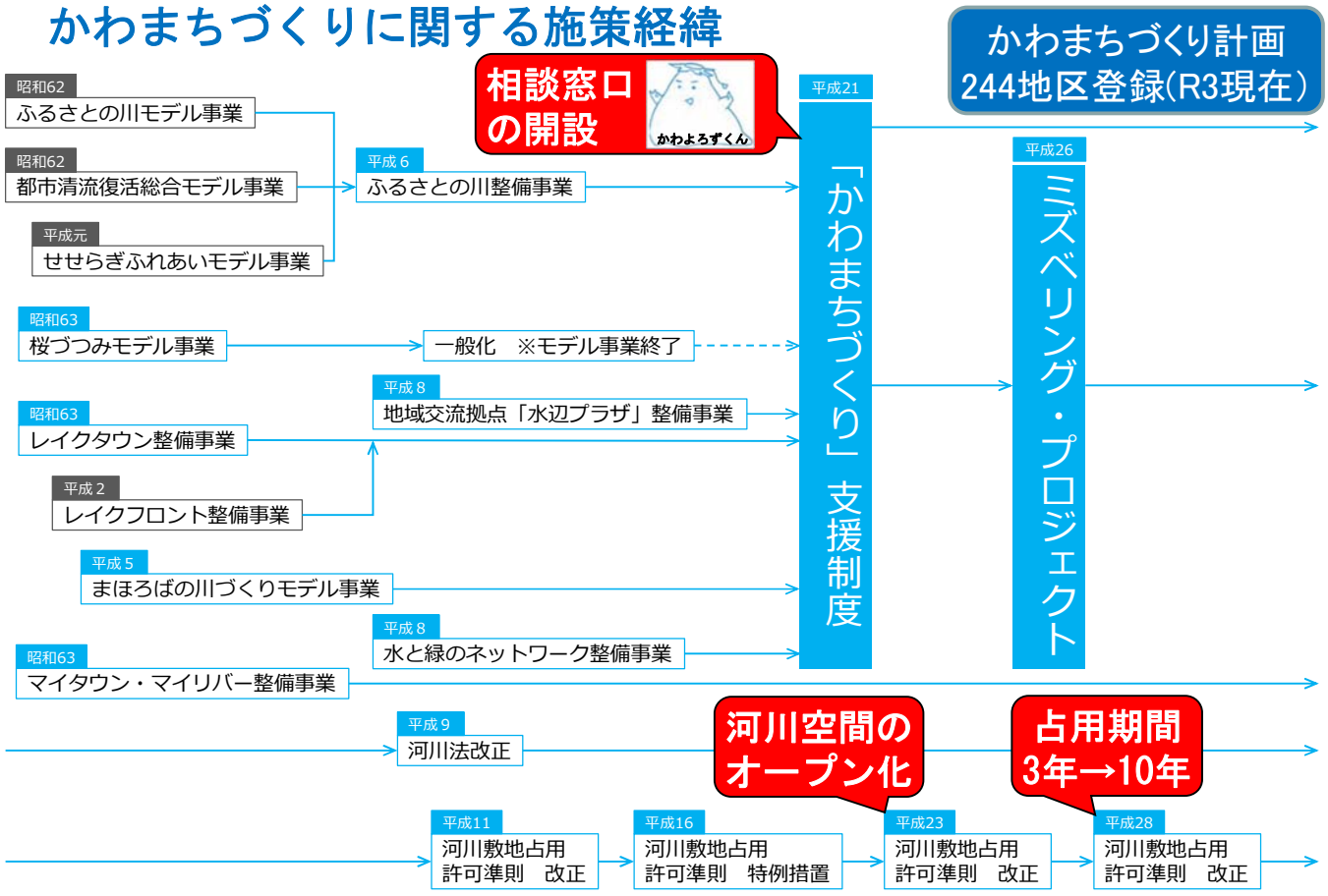
平成21(2009)年度　創設
「かわまちづくり」支援制度

- 地域の「かわまちづくり」の取組を河川管理者が支援する制度
- 「かわまちづくり計画」に基づき、ソフト・ハードの両面の支援を行う

かわまちづくりとは
河川空間と**まちの空間**の**融合**が図られた、
良好な空間形成を目指す**取組み**

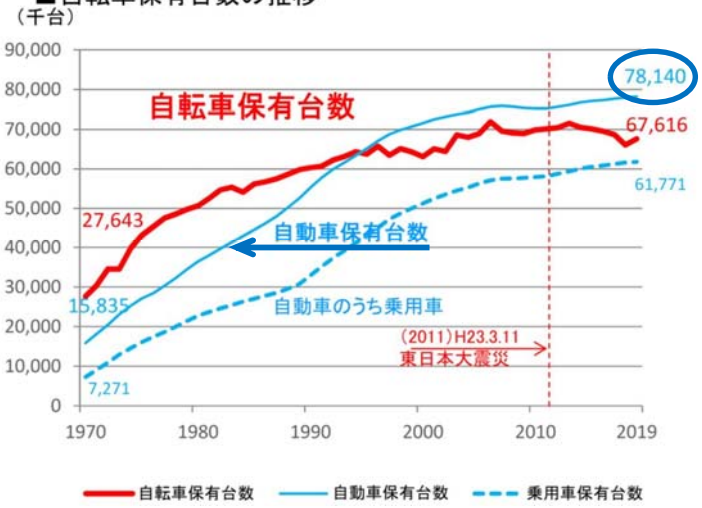
1. 背景と目的

かわまちづくりに関する施策経緯



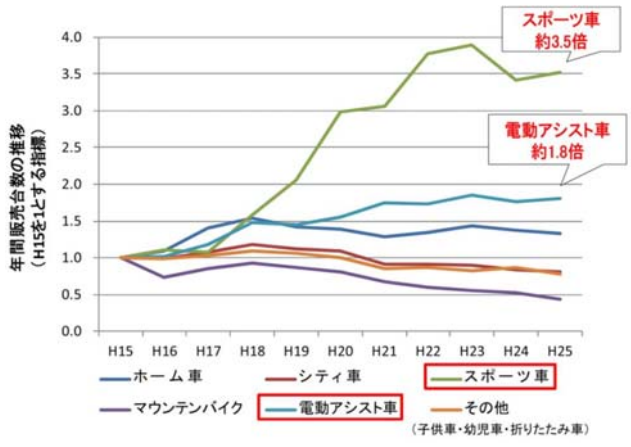
1. 背景と目的

■自転車保有台数の推移



出展:自転車の活用に関する現状について(国土交通省)
https://www.mlit.go.jp/road/ir/ir-council/bicycle-up/06pdf/02.pdf

■車種別販売台数の推移



出展:自転車活用推進計画について(国土交通省)
https://www.mlit.go.jp/common/001267507.pdf

1. 背景と目的

平成29(2017)年5月　**自転車活用推進法**　施行

平成30(2018)年6月　**自転車活用推進計画**　閣議決定

令和4(2022)年8月現在
160以上の都道府県や市町村で**自転車活用推進計画**を策定

地方版自転車活用推進計画
策定済の都道府県一覧

国土交通省HPを一部編集

1. 背景と目的

GOOD CYCLE JAPAN

GOOD CYCLE JAPAN

ENVIRONMENT
サイクル都市環境
環境にやさしい「自転車社会」の未来地図

HEALTH
サイクル健康
自転車が育むヘルシーライフ

TOURISM
サイクル観光
観光・イベント、
もっとサイクリングを楽しむために！

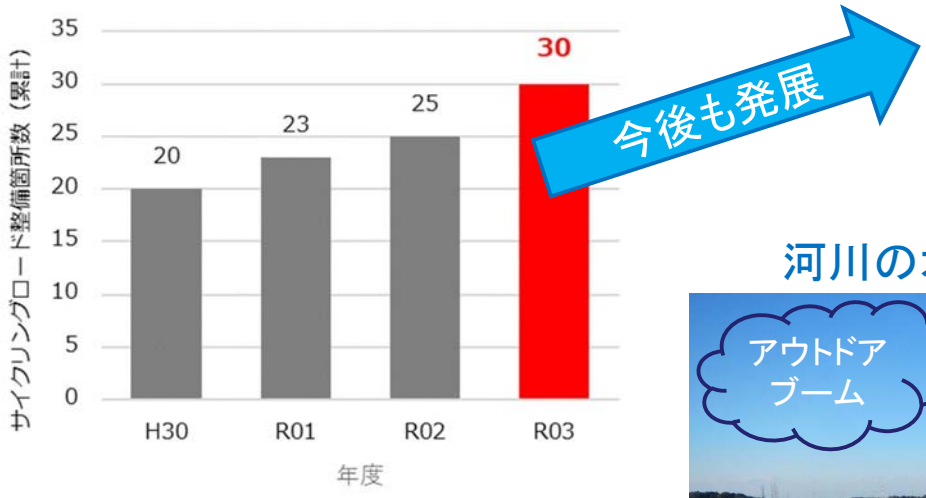
SAFE
サイクル安全
安全・安心な自転車社会のために

ナショナルサイクルルート

国土交通省HPを一部編集

1. 背景と目的

かわまちづくり地区における サイクリングロード整備箇所数



河川のオープン空間

1. 背景と目的

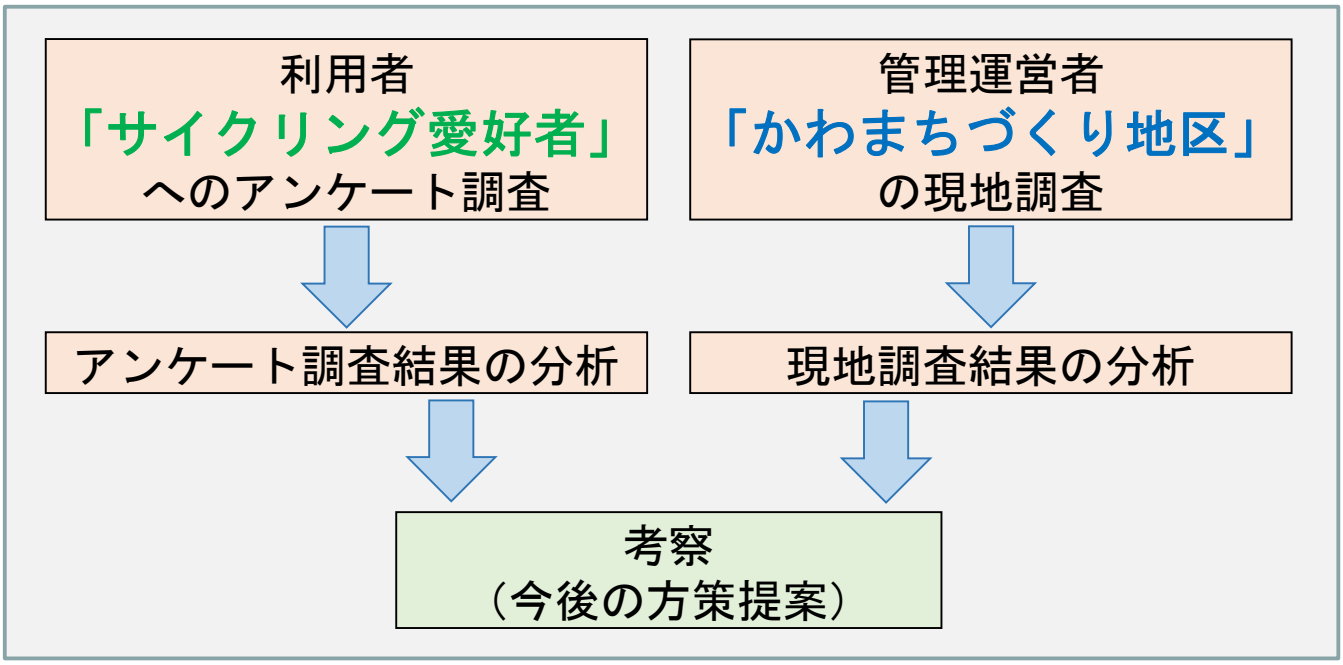
目的　河川区域のサイクリングロードの

- **整備の質向上**
- **利活用促進**

以下の観点で考察

- 安全性
- 利便施設
- 地域振興
- 維持管理
- サイクリングロードの情報発信

2. 調査分析



調査分析フロー

2. 調査分析

アンケート調査　調査概要

調査項目

①1日あたり快適に走行できる距離

②魅力

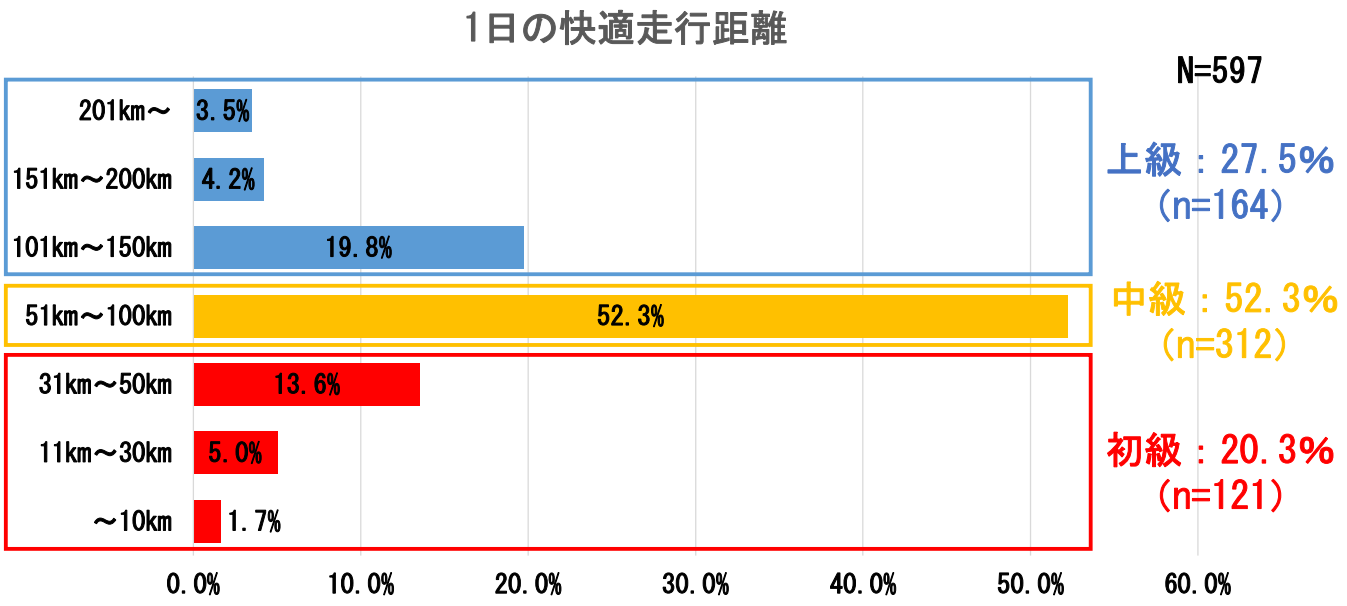
③あったら良いと思う施設・サービス
（ニーズ）

④最も気になる点（課題）

等

２．調査分析

アンケート調査　サイクリングのレベル区分



２．調査分析

アンケート調査　分析方法及び結果

1）魅力（自由記述）

分析方法

手法：テキストマイニング※

一つの文章に同時に出現した「単語ペア」の出現回数より分析

※（株）ユーザーローカル社が提供している「AIテキストマイニング」というＷＥＢサービスを用いた　https://textmining.userlocal.jp/

テキストマイニング
イメージ図

今日の夕食はカレーライスです

↓ 単語の集合に変換

今日 / の / 夕食 / は / カレーライス / です

↓ 出現量や繋がりを解析

有益な情報を抽出

2. 調査分析

アンケート調査　分析方法及び結果

1）魅力（自由記述）

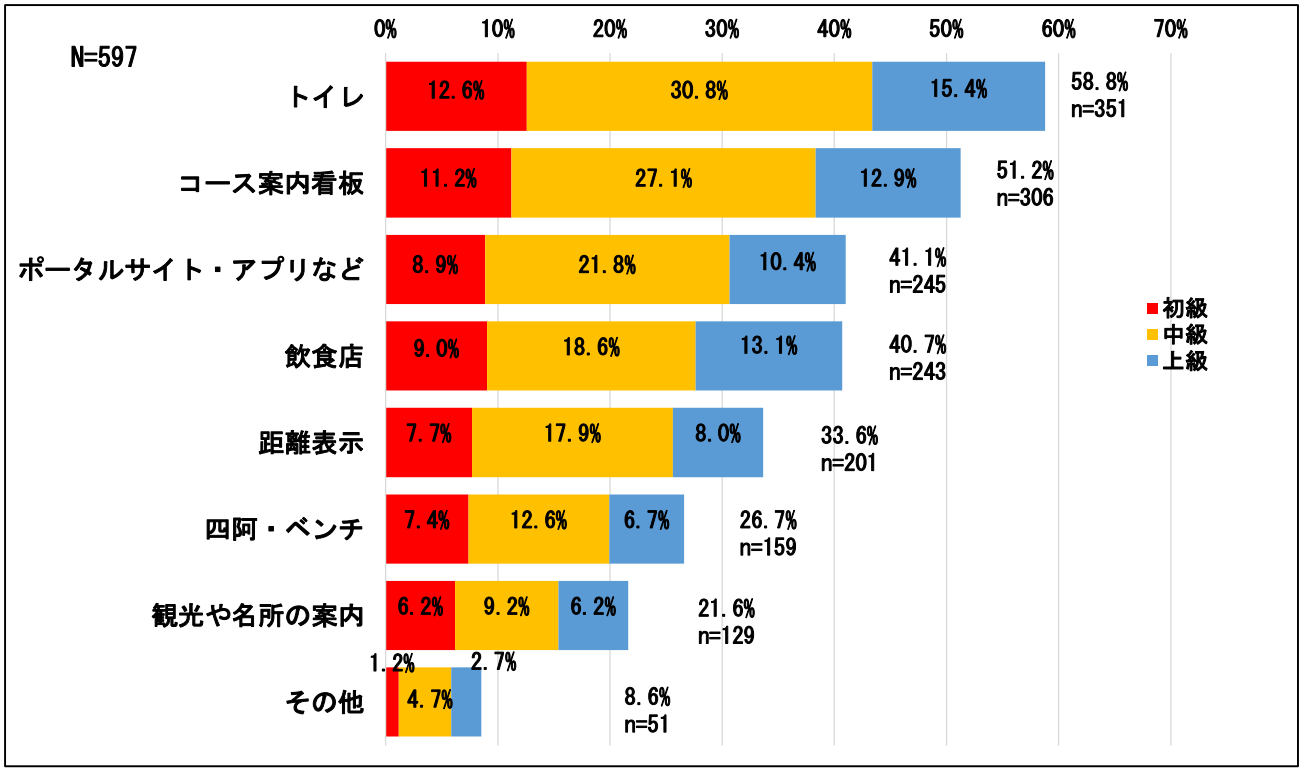
魅力の区分	単語ペア		出現合計回数
	単語1	単語2	
河川沿いのサイクリングロード自体の特性に関するもの	車	少ない、安全、走れる、通行	42
	信号	少ない、走れる	11
	舗装	整備、走れる	4
	平坦	走れる	3
河川沿いのサイクリングロードの走行により利用者が得られるもの	景色	良い、走る	15
	気持ちよい	風	2

- 自動車が少なく安全で、信号が少なく、舗装が整備され、平坦で走りやすい。
- 景色がよく、風が気持ちよい。

2. 調査分析

アンケート調査　分析方法及び結果

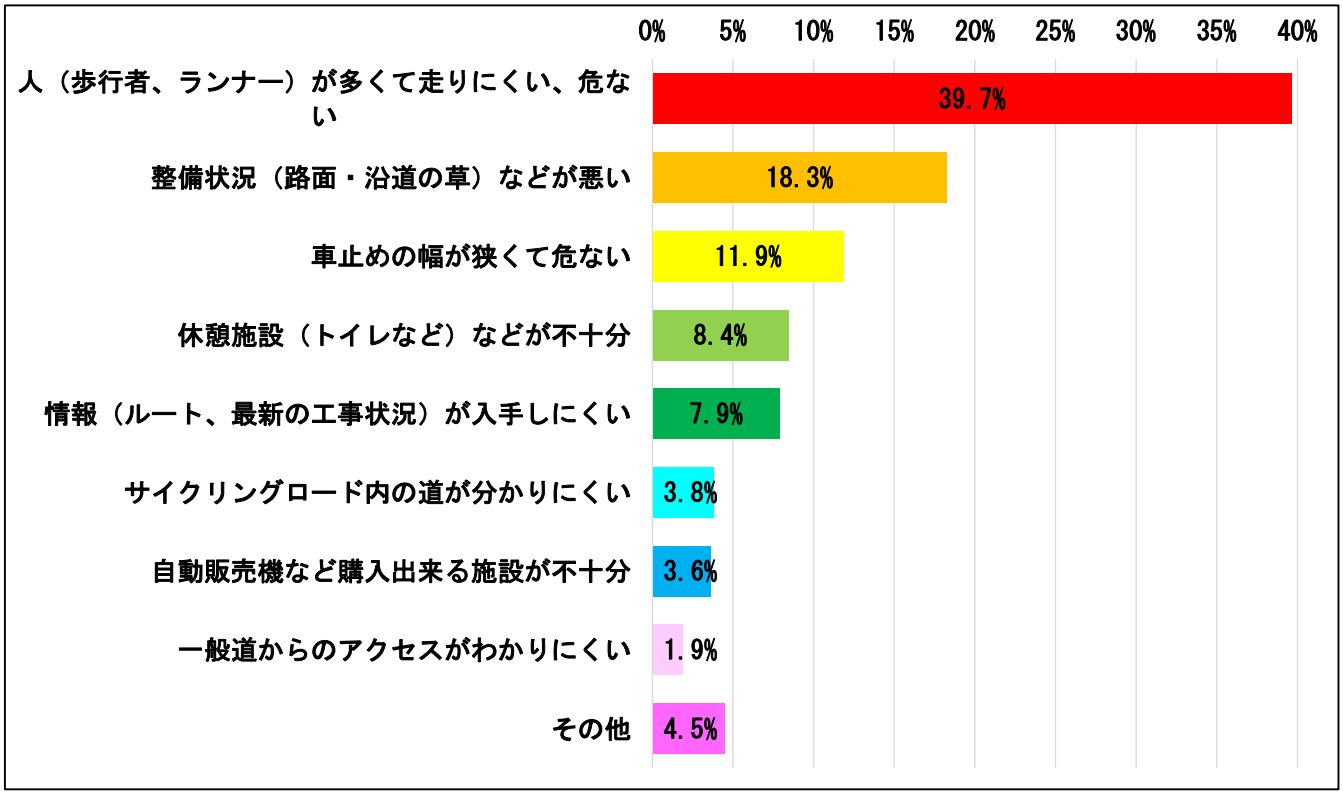
2）ニーズ（複数選択）



2. 調査分析

アンケート調査　分析方法及び結果

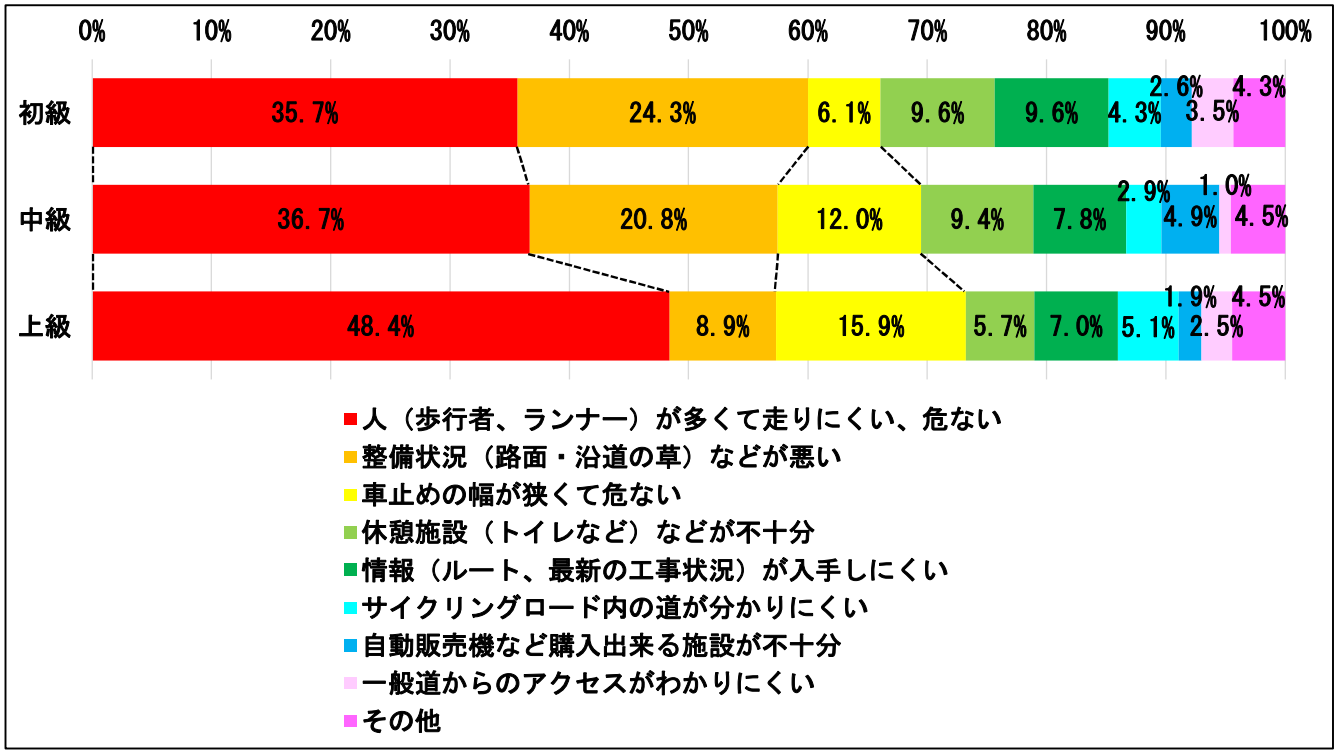
3）課題（単一選択）



2. 調査分析

アンケート調査　分析方法及び結果

3）課題（単一選択）



公益財団法人 リバーフロント研究所

2. 調査分析

現地調査　調査地区の概要

美瑛川地区かわまちづくり

河川名　　石狩川水系美瑛川
市町村名　　北海道美瑛町
河川管理者　旭川開発建設部

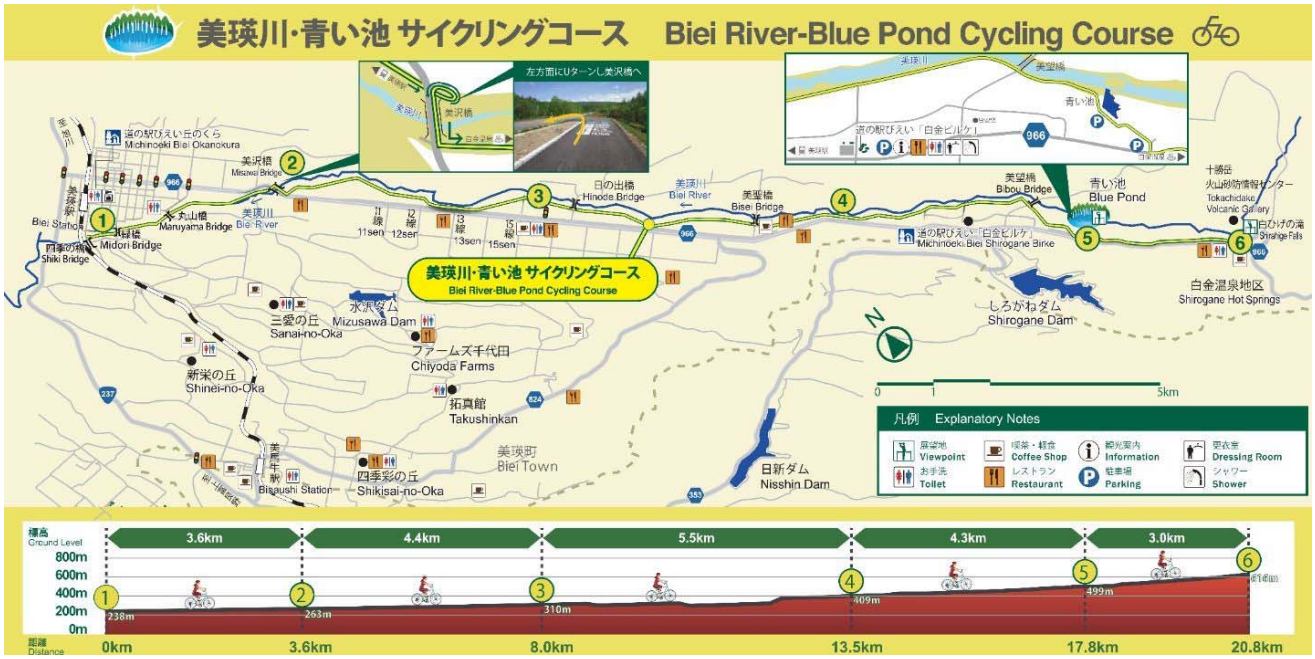
鬼怒川・小貝川かわまちづくり

河川名　　利根川水系鬼怒川・小貝川
市町村名　　茨城県常総市、下妻市、守谷市、つくばみらい市、筑西市、結城市、八千代町
河川管理者　下館河川事務所

2. 調査分析

現地調査　調査地区の概要

美瑛川地区かわまちづくり



2. 調査分析

現地調査　調査地区の概要

鬼怒川・小貝川かわまちづくり

2. 調査分析

現地調査　調査方法

ヒアリング項目

① サイクリングロード整備の目的

② サイクリングロード整備による効果

③ 整備内容・ソフト対応

④ 維持管理

⑤ 今後の課題

等

2. 調査分析

現地調査　分析方法及び結果

①目的

美瑛川地区かわまちづくり	鬼怒川・小貝川かわまちづくり
急勾配がないことから**親子連れを主なターゲット**とし、堤防をサイクリングロードとして利用することで、**観光拠点を結ぶ導線**として**地域活性化**や**安全性の向上**を図ることを目的としている。	**急勾配がない**ことから**初心者を主なターゲット**とし、堤防のサイクリングロードを**観光拠点や他市町を結ぶ導線**として利用することで、**地域活性化**や**地域振興**を図ることを目的としている。

特徴

- 河川と同程度の勾配となるため、勾配が緩くサイクリングのレベルが高くない層でも安心して利用できる
- 管理用通路であることから一般車両の通行がない又は少ないため一般道より安全に走行できる
- 河川によっては複数の市町村を流れていることもあり、他の市町村を結ぶ導線として利用できる

2. 調査分析

現地調査　分析方法及び結果

②効果

美瑛川地区かわまちづくり	鬼怒川・小貝川かわまちづくり
サイクリングは、サイクルスタンプラリー等の期間の長いイベントを開催することが可能で、それらイベントが「まち」のPRとなり、観光入込客数が増加した。	他市と連携した広域のサイクリングイベントを行うことで、地元市町のPRとなり、河川空間利用実態調査※2では、鬼怒川のサイクリング利用者数が増えている。

特徴・可能性

- サイクリングは、期間の長いイベントが可能であり、観光やまちづくりに効果がある
- 「他市町村を結ぶ導線となる」という特徴を活かすことで、サイクリングによる広域な連携が可能になる

2. 調査分析

現地調査　分析方法及び結果

③整備内容・ソフト対応

	美瑛川地区かわまちづくり	鬼怒川・小貝川かわまちづくり
市・町	【整備内容】 ・サイクルステーション及び駐車場（既存インフォメーションセンターを道の駅に改築） ・売店、トイレ（青い池） ・サイクルスタンド ・案内看板 ・路面標示（ルートや施設の案内、カーブ区間に左側走行を促すセンターライン） 【ソフト対応】 ・コースマップを作製し、協力店舗等での配布及び観光協会HPへの掲載	【整備内容】 ・路面標示等の案内 ・休憩施設等の上物 ・転落防護柵 ・ルール・注意喚起看板 【ソフト対応】 ・コースマップを作製し、協力店舗等での配布及び市のHPへの掲載 ・市のHPにサイクリングロードの紹介
河川管理者	【整備内容】 **・側帯（休憩施設等の用地として）** ・坂路 **・橋梁平面交差部のアンダーパス** ・眺望の良い箇所の樹木伐採 【ソフト対応】 ・HPにコースマップの掲載及びサイクリングロードの紹介	【整備内容】 **・側帯（休憩施設等の用地として）** ・坂路 **・橋梁平面交差部のアンダーパス**

2. 調査分析

現地調査　分析方法及び結果

③整備内容・ソフト対応

特徴・可能性

河川区域の広い空間を利用することで

- アンダーパスを活用することで**車両との交錯なしで安全に通行できる**
- **側帯整備により**川裏側に用地を拡幅させ、休憩施設等の**利便施設の用地として活用できる可能性がある**

2. 調査分析

現地調査　分析方法及び結果

④維持管理

美瑛川地区かわまちづくり	鬼怒川・小貝川かわまちづくり
• 本来は、**道路から外側1mまでは、サイクリングロードの占用者が維持管理**を行う。 • 現状では、**除草等は河川管理者が堤防維持管理レベル**で行っている（除草：市街地2回/年、郊外1回/年）。	• 本来は、**道路から外側1mまでは、サイクリングロードの占用者が維持管理**を行う。 • 現状では、**除草等は、河川管理者が堤防維持管理レベル**で行っている（除草：3回/年）。法肩ブロック設置により、路肩1mの除草は軽減されている。

【参考】法肩ブロック設置状況

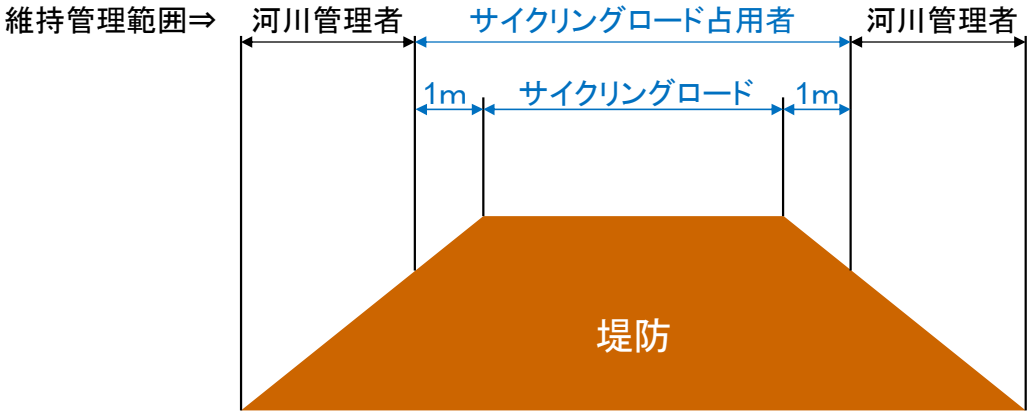
2. 調査分析

現地調査　分析方法及び結果

④維持管理

特徴

- **道路路肩から1mまでは占用者、それ以外は河川管理者**が維持管理を行う
- サイクリングロードの**占用がされていない場合は、河川管理者が堤防の維持管理レベルで行っている**



2. 調査分析

現地調査　分析方法及び結果

⑤今後の課題

美瑛川地区かわまちづくり	鬼怒川・小貝川かわまちづくり
・**利用マナー・ルールづくり**等による更なる**安全性の向上** ・**まち側の周辺観光と連携**することによる付加価値の創出、**まち側の施設を利用してほしい**。（飲食、物販等） ・**サイクルスタンド**や**工具セット**等を充実することによる**利便性の向上** ・サイクリングロード等の周知による**効果的・効率的な情報発信** ・河川沿いのトイレは「青い池」の休憩所以外は、**河川沿いに公共のトイレがないため、まち側へ誘導**している。	・トイレを堤防沿いの側帯に整備するのは、**電気や上下水道等も必要なためハードルが高い。トイレは、まち側へ誘導**している。 ・河川区域のサイクリングロードの利用だけではなく、**まち側の施設を利用してほしい**。（飲食、物販等） ・**堤防は河川管理用通路としての整備**となり、幅員等は堤防整備の仕様制限となる。 ・将来の**維持補修や改築時の予算確保**。

大きく　**「安全性」「利便施設」「地域振興」「維持管理」「情報発信」**　に分けられる

2. 調査分析

現地調査　分析方法及び結果

⑤今後の課題

安全性　マナーやルール等による安全性の向上と考える要因
- 河川利用の観点から歩行者との分離が難しい
- 堤防天端を利用する場合は幅員等の制限がある

利便施設　河川では電気や上下水道の整備が必要でハードルが高い
⇒トイレはまち側への誘導

地域振興　まち側の施設利用を期待しているが十分ではない
- 河川とまち側施設が近接していない
- まち側の魅力を高めることによる付加価値の創出や案内や情報発信などのまち側に誘導する工夫

維持管理　維持補修や改修といった継続的にかかる費用の予算確保

情報発信　サイクリングロードの効果的・効率的な周知

3. 考察

項目	利用者		管理運営者	
	ニーズ	課題	整備内容・ソフト対応	課題
①安全性	—	・人（歩行者、ランナー）が多くて走りにくい、危ない ・車止めの幅が狭くて危ない	・カーブ区間に左側走行を促すセンターライン ・転落防護柵 ・ルール及び注意喚起看板 ・橋梁平面交差部のアンダーパス	・利用マナー・ルールづくり等による更なる安全性の向上
②利便施設	・トイレ ・飲食店 ・四阿・ベンチ	・休憩施設（トイレなど）などが不十分 ・自動販売機など購入出来る施設が不十分	・サイクルステーション及び駐車場（道の駅） ・休憩施設等の上物 ・サイクルスタンド	・サイクルスタンドや工具セット等の充実、トイレを整備することの困難さが課題
③地域振興	・観光や名所の案内	—	・サイクリングイベントの開催	・まち側の周辺観光と連携することによる付加価値の創出 ・まち側施設の利用（飲食、物販等）
④維持管理	—	・整備状況（路面、沿道の草）などが悪い	・除草は河川管理者が堤防維持管理レベルで行っている	・将来の維持補修や改築時の予算確保
⑤サイクリングロードの情報発信	・コース案内看板 ・ポータルサイト・アプリなど ・距離標示	・情報（ルート、最新の工事状況）が入手しにくい ・サイクリングロード内の道が分かりにくい ・一般道からのアクセスが分かりにくい	・案内看板 ・路面標示 ・コースマップの作製及び協力店舗等での配布 ・HPでサイクリングロードを紹介	・サイクリングロードの周知による効果的・効率的な情報発信

3. 考察

①安全性

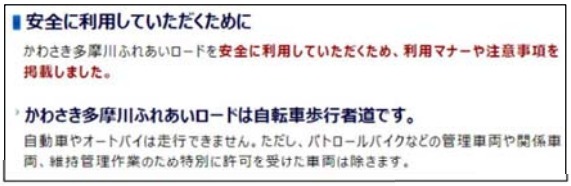
走行帯の分離例

自転車が通行できる車止め設置例

https://perfect-comes-from-perfect.blogspot.com/2017/08/blog-post_23.html （一部編集）

ルール看板

注意喚起看板



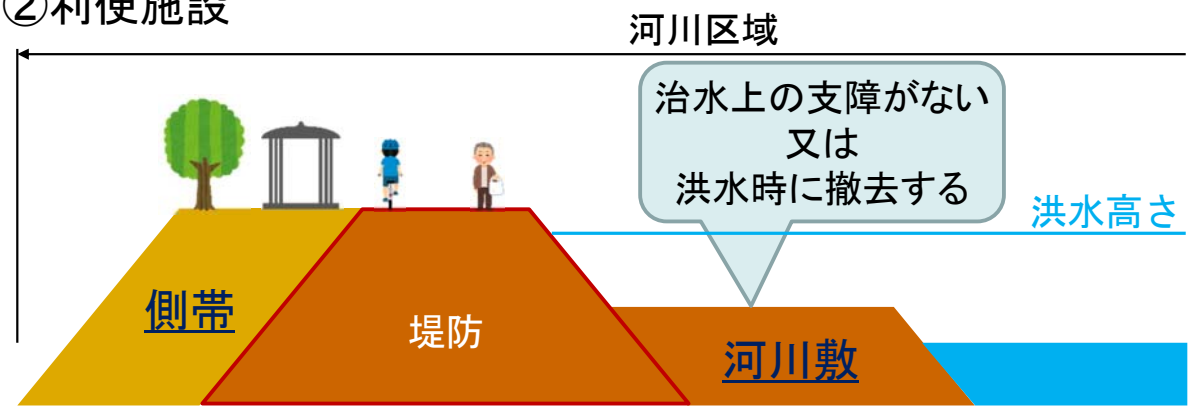
ルール・マナーの啓蒙例（川崎市HP）

一部にマナーの悪いサイクリストと歩行者がいる
- **どのようにルール・マナーを徹底していくが課題**

車止めの設置幅が狭い箇所が各地にある
- **車止めの適切な設置幅が示されていないことが課題**

3. 考察

②利便施設



河川区域内は電気や上下水道の接続に制約がある場合が多い
- 河川沿いにある公園の利用
- 用地をまち側施設の出店に利用

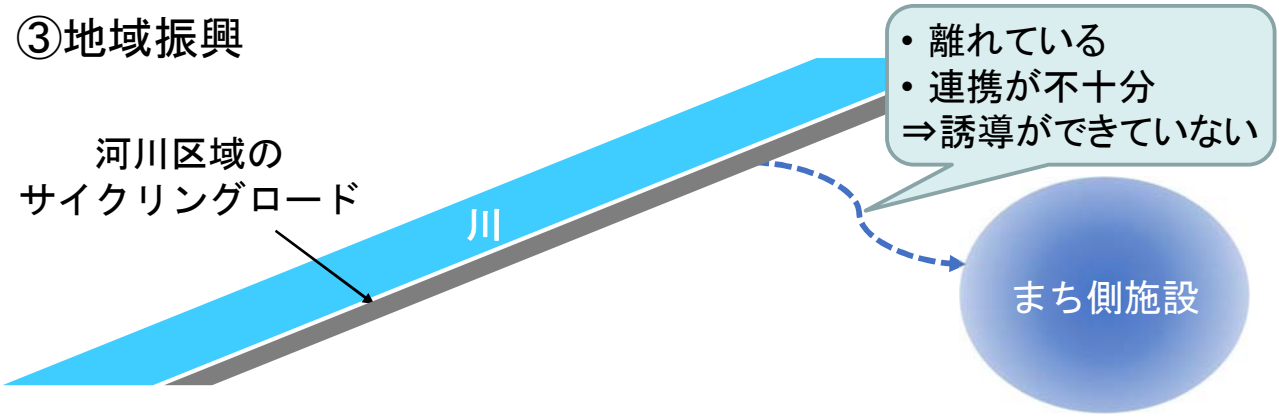
等

周辺エリアも含めて整備内容や設置箇所を検討

まち側の案内例

3. 考察

③地域振興



地域の合意形成を図りながら進める

- まち側の付加価値の創出
- まち側への案内標示の設置
- 既存施設を管理施設として活用　等

例えば
自転車盗難の心配がない飲食施設など

まち側へ誘導、利用促進

まちへの誘導が地域振興につながり、
他市町村や観光地を結ぶ導線となることで
広域な連携も期待できる

3. 考察

④維持管理

予算確保が課題
- 除草　　：　市民や民間事業者の維持管理への取組み
- 路面維持：　維持管理費以外の資金活用　　等

支援者に対し
- 地域貢献や公共空間の環境維持など社会的意義を示す

地域では
- その意義について議論・共有　　が大切

活動団体による
河川環境維持活動例

ふるさと納税型クラウドファンディング活用例（護岸整備）

かわまちづくり計画策定の手引き

3. 考察

⑤サイクリングロードの情報発信

事前情報の収集案

工事情報 → 連動

サイクリングアプリの主な機能
- コースの案内
- 位置確認
- 距離・標高計算　等

イベント情報 → 連動

アプリの運営主体、運営方法については今後の課題

走行中の情報提供例

コース案内看板

案内標示

4. おわりに

利用者の魅力
自動車や信号が少なく、
景観や風が気持ちよい

管理運営者のメリット
サイクリングによる観光
やまちづくりの効果

双方に需要があり、
全国に広がる可能性がある

管理運営者だけでは実現が難しいものがある

サイクリング利用者や地域、民間事業者などと
コミュニケーションを通じて解決することの必要性

4. おわりに

現状は・・・

ニーズや事例などのまとまった情報がない

情報収集や整理に多大な労力

４. おわりに

今後は・・・

河川区域におけるサイクリングロードのニーズや事例をまとめた
ガイドラインや事例集 が示されると

- ●コミュニケーションの基礎資料として活用でき、
- ●地域の状況に則した整備内容や整備順序が検討できる

↓

- **整備の質が向上**
- **利活用が促進**